

プロジェクト課題活動実績

課題名：南すおう地域施設園芸への新規参入の促進

柳井農林水産事務所農業部 チーム員：大永美由紀、森江聖子、河部操子、
棟居祐子、山本和美、重田進

<活動事例の要旨>

南すおう地域の施設園芸産地の維持・発展のため、いちごとアスパラガスの新規就農者の確保について次の取組を進めた。

○いちごの取組状況

模擬経営研修を開始した新規就農予定者は技術等の向上が見られる。令和6年度から模擬経営研修を開始する新規就農予定者2名について、研修先や運営方法が決定した。

農地リスト等を活用しながら新規就農予定者への農地情報提供や現地確認支援を行い、新規就農予定者3名の農地が決定した。

施設整備の初期投資軽減手段として、新規就農予定者3名が居抜きあるいは移設によって中古ハウスを活用し、一部では自家施工とすることで工事費用を抑えることとなった。

(公財)やまぐち農林振興公社と連携して新規就農者の募集活動や、教育機関への産地PR動を実施した。

○アスパラガスの取組み状況

令和4年度に整理した技術的課題の解決(春芽収穫・立茎作業適正化、夏期の葉面積確保や高温対策、作業の効率化等)の技術実証行い、月別管理資料を作成した。

アスパラガスで新規就農する場合の施設装備や経営モデルについてJAと協議した。基本経営モデルは、「アスパラガス+はなっこりー+ α 」の複合品目とする方向とした。次年度も引き続き、新規就農者の確保に向けて、プロジェクト活動としての各取組をさらに進めていくこととしている。

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題

南すおう地域のいちご及びアスパラガスは、生産者の減少により産地規模が縮小している。産地の維持・拡大には、担い手確保が重要であることから、就農を目指す研修生の受入促進や模擬経営研修の実践、農地の確保や施設整備等の就農後の経営安定に向けた支援を強化していく必要がある。

いちごについて、部会員の既存ハウスを活用した模擬経営研修ハウスによる研修体制の合意形成ができ、今年度から模擬経営研修ハウスでの研修を開始している。そのため、部会や関係機関が連携して、効果的な研修が継続的に実施できるよう支援していく必要がある。また、優良農地の確保、就農後のフォローアップ体制を整備し、部会と合意した新規就農者確保計画の実現に向けて更なる新規就農者募集活動の強化を図る必要がある。

アスパラガスでは、単収や収益が低迷していることから、栽培技術や経営面における課題と対策を整理し、目標単収等を定めながら経営安定に向けた改善策の検討・提案を行ったところである。今年度は、それらの情報を活用しながら、新規就農者等の新たな栽培者確保に向けた経営モデルを検討していく。

(2) 目標

- ・いちご研修ハウスの円滑な運営支援
- ・いちご研修候補者 2人/年
- ・アスパラガス課題解決実証生産者 目標単収 2.5t/10a

2 普及活動の内容

(1) いちご

ア 新規就農予定者への研修運営支援

新規就農予定者1名が今年度から模擬経営研修を開始しており、町・JAと共に定期的に研修状況の確認や栽培の基本情報提供を行った。また、新規就農予定者2名（今年度は農業大学校にて研修受講中）が令和6年度から模擬経営研修を開始することとしているため、指導農家選定に向けたJA山口県南すおういちご部会との調整や、受入農家との具体的な研修運営方法について協議を行った。



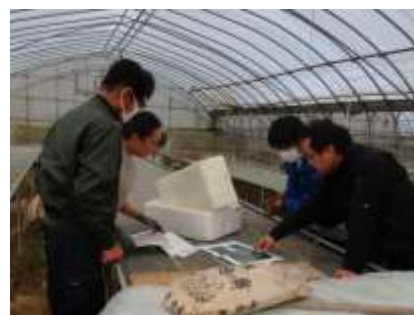
イ 就農候補地の確保に向けた支援

令和4年度に作成した就農候補農地リストについて、新たな農地情報の追加や既存情報の提供方法について関係機関との意見交換やリストアップ済み農地の地権者の意向確認を行い、リスト情報の更新を行った。また、新規就農予定者3名の就農予定地決定に向け、候補農地の現地状況確認や貸借に係る地権者との面談調整を行った。

ウ 施設整備等の初期投資軽減の検討

(ア) 中古ハウス等の活用

就農時の設備投資費用の負担軽減手段として、中古ハウスの再活用を進めている。中古ハウス情報について、令和4年度まで蓄積してきた情報に今年度得た情報を追加して情報を更新した。整理した情報に基づいて、新規就農予定者3名と継承可能な中古ハウスを現地確認し、活用方法の検討を行った。



また、いちご部会生産者から収集したハウス移譲意向の情報について、新規就農予定者へ情報提供し、現地確認及び継承元生産者と新規就農予定者との面談調整を行った。

(イ) 施設工事費用の削減

施設整備をする際の工事費用の負担軽減手段として、育苗ベンチの自家施工を想定し、施工手順についてマニュアル化した。

エ 新規就農者の募集活動

令和6年度以降の研修生の獲得に向けて、（公財）やまぐち農林振興公社と連携しながら、募集活動を実施した。「農家のおしごとナビ」を利用した体験研修受付、新規就農ガイダンスへの参加や「やまぐち就農ゆめツアー」を開催して就農相談者へ直

接産地情報を伝えた。

また、教育機関への産地PR活動として、地元高校生を対象としたヤングファーマー養成研修の開催やインターンシップの受入調整を行った。



(2) アスパラガス

ア 目標単収確保

令和4年度に整理した技術的課題の解決（春芽収穫・立茎作業適正化、夏期の葉面積確保や高温対策、作業の効率化等）を目標として、技術実証及び技術指導を行った。



イ 経営モデル等の検討

新規就農を想定した、施設装備の仕様をJA山口県南すおう統括本部と協議した。また、アスパラガスで新規就農する場合、アスパラガス単一品目だけでは、十分な所得確保が困難であることが想定されたため、アスパラガス経営を補完する作物について、関係機関等から情報収集し、整理した結果をJAと協議した。

3 普及活動の成果

(1) いちご

ア 新規就農予定者への研修運営支援

令和5年度模擬経営研修を開始した新規就農予定者1名は、作業スケジュール作成が上手になり、株の観察力が向上した。令和6年度から模擬経営研修を開始する新規就農予定者2名は、受入農家や運営方法等が決定した。

イ 就農候補地の確保に向けた支援

情報を更新した農地リスト等の情報提供や現地確認を行い、新規就農予定者3名の就農地が決定した。

ウ 施設整備等の初期投資軽減の検討

施設整備等の初期投資軽減手段として、新規就農予定者3名が育苗ハウスや倉庫の建設資材として中古ハウスを活用し、一部を自家施工により設置していくこととなった。また、新規就農予定者の1名は、JAいちご部会生産者から移譲意向のあった施設を居抜きにより継承することとなった。

エ 新規就農者の募集活動実施

「農家のおしごとナビ」からの体験研修問い合わせが2件、新規就農ガイダンスへの訪問者が3名、「やまぐち就農ゆめツアー」への参加者が4名あった。今回は、就農研修生の確保までには至らなかったが、応募者等へ、資材高騰の影響により初期投資額の増加等の産地の現状説明も併せて行っており、いちご栽培に関する応募者の理解は深められたと考えられる。

(2) アスパラガス

ア 目標単収確保

令和4年度に整理した技術課題について解決に向けた取組を進め、今年度のモデル生産者の単収は1.9t/10aであった。目標単収には届かなかったが、令和4年度単収1.4t/10aから40%向上した。単収が低い原因は、立茎数不足や夏期高温による規格外品の増加によるものと考えられ、当初想定していた技術課題の解決につながる管理作業を確実に実行することにより目標単収は確保できるものと考えられる。

イ 経営モデル等の検討

J Aと協議した結果、「アスパラガス+はなっこりー+ α 」の組み合わせで経営モデルを作成する方向となった。

4 今後の普及活動に向けて

(1) いちご

ア 新規就農予定者への研修運営支援

令和6年から開始する新規就農予定者2名の模擬経営研修の円滑な運営に対する支援を引き続き行っていく。研修運営方法は、新規就農予定者各個人により異なっていくことも推測されるため、柔軟に体制を改善していくこととする。

また、令和7年度には新規就農予定者3名が就農し、営農を開始するため、営農開始後のフォローアップ方法について、関係機関と協議を進める。

イ 就農候補地の確保に向けた支援

優良農地リストは情報を更新していく。また、リスト情報は、募集活動の際に提供情報として活用していくことも検討していく。

ウ 施設整備等の初期投資軽減の検討

新規就農予定者3名の施設整備について、中古ハウスの利用や自家施工による初期投資軽減を図りつつ、補助事業の活用についても関係機関と協議を進めながら、可能な限りの初期投資費用の軽減を図る。

中古ハウス情報や施設の第三者継承について、関係機関と連携しながら情報を更新し、新規就農者募集活動の際に提供情報として活用していく。

エ 新規就農者の募集活動

就農する際の初期投資額が上昇している現状説明や農地情報等を提供し、応募者の産地への理解を深めながら、令和7年度以降の研修候補生の募集活動を実施していく。

(2) アスパラガス

ア 目標単収確保

月別の管理資料等の配布や定期的な技術指導により、適切な管理作業への理解を深め、単収向上を図る。

イ 経営モデル等の検討

新規就農時のアスパラガス複合経営（アスパラガス+はなっこりー+ α ）のモデルを作成し、検証を行う。また、新規就農者の受入体制等の方向性について、関係機関との協議を行う。